

3-6 子育て支援施設

(1) 施設の概要、設置状況

子育て支援施設は、以下の設置条例に基づき7つの施設が設置されていますが、本白書では、子育て支援事業を主たるサービスとして提供している3施設を対象としています。子育て支援事業、子育て相談、プレイルームの開放に加えて、病児・病後児保育（くまさんルーム）を行っています。

＜ホール設置条例一覧＞

- ・ハイトピア伊賀公共公益施設の設置及び管理に関する条例
- ・伊賀市子育て支援センターの設置及び管理に関する条例
- ・伊賀市病児・病後児保育室設置及び管理に関する条例

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠	備考
ハイトピア伊賀公共公益施設(4階)子育て包括支援センター	上野	こども家庭課	75.57㎡	有	直営	ハイトピア伊賀公共公益施設の設置及び管理に関する条例	平成24年4月供用開始
大山田子育て支援センター	大山田	大山田住民福祉課	201.60㎡	有	直営	児童福祉法(昭和22年法律第164号)第35条第3項/伊賀市子育て支援センターの設置及び管理に関する条例	大山田西保育園に併設
病児・病後児保育室(くまさんルーム)	上野	こども家庭課	76.72㎡	有	一部委託	伊賀市病児・病後児保育室設置及び管理に関する条例	市民病院に併設

表2-3-16 子育て支援施設の一覧

また、いがまち子育て支援センター（いがまち保健福祉センター内）、島ヶ原子育て支援センター（島ヶ原地区市民センター内）、あやま子育て支援センター（あやま保健福祉センター内）、青山子育て支援センター（さくら保育園内）の4施設においても子育て支援事業を行っています。



大山田子育て支援センター



くまさんルーム

(2) 施設の状況

子育て支援施設を構成している3棟の老朽化率の平均は7.4%となっており、全ての施設が平成以降に整備されているため耐震性も有しています。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
ハイトピア伊賀公共公益施設(4階)子育て包括支援センター	子育て包括支援センター	75.6㎡	平成23年度	0.0%	38年	鉄骨造	有	無	4.1点
大山田子育て支援センター	事務所	201.6㎡	平成18年度	8.0%	45年	鉄筋コンクリート	有	無	4.0点
病児・病後児保育室(くまさんルーム)	病児保育室くまさんルーム	76.7㎡	平成12年度	22.0%	36年	鉄筋コンクリート	有	無	3.6点

表 2-3-17 建物性能一覧表

子育て支援施設の建物性能評価点を施設単位で比較した図2-3-32のグラフでは、用途内の平均点(3.9点)が全施設の平均(2.7点)よりも高くなっていることが分かります。

個別施設については、子育て包括支援センター(ハイトピア伊賀)と大山田子育て支援センターが4.0点以上となっています。

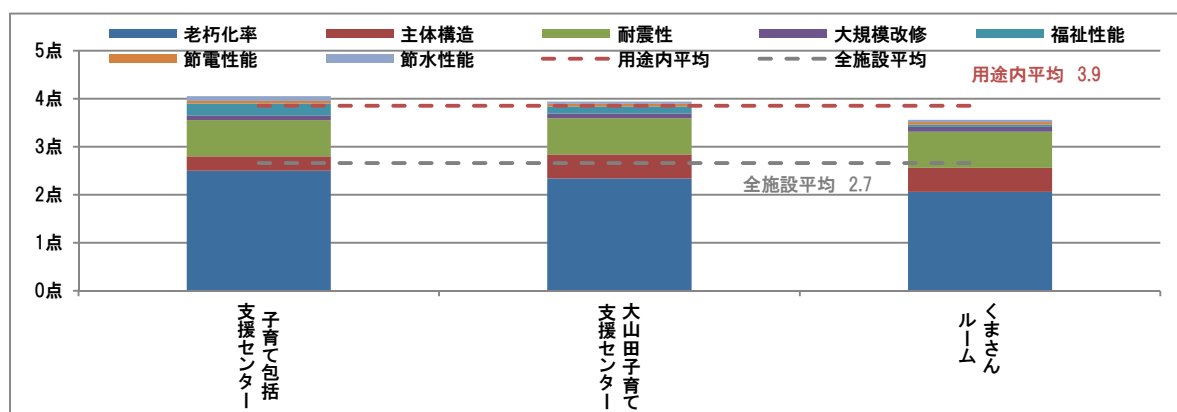


図 2-3-32 建物性能評価点の比較（5点満点）

(3) 財務の状況

図2-3-26は、保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。大山田子育て支援センターが3.9千円/㎡、くまさんルームが2.9千円/㎡となっています。

なお、子育て包括支援センター（ハイトピア伊賀）は、平成24（2012）年度に供用開始された施設のため、保有コストがゼロとなっています。

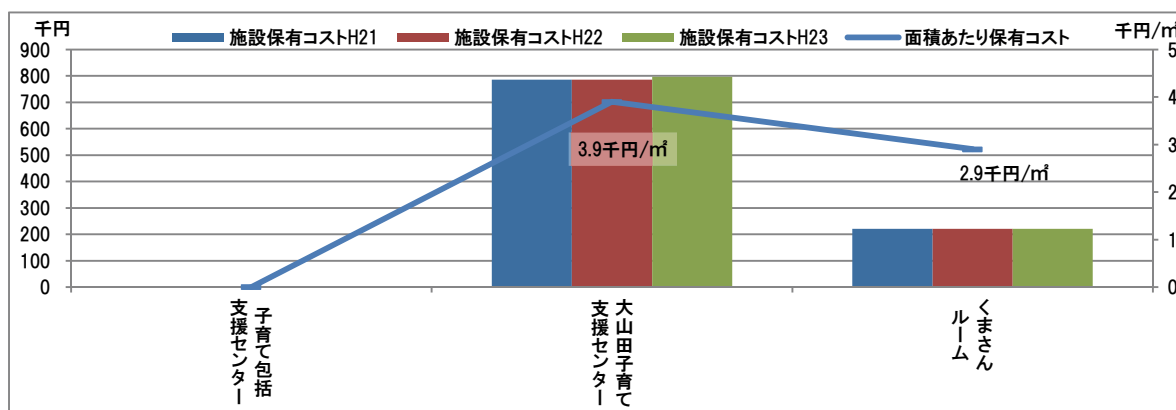


図2-3-33 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

子育て支援施設の総コスト12,984千円/年のうち、指定管理料及び事業運営委託料が8,868千円/年と68.2%を占めています。

利用者一人当たり総コストについては、大山田子育て支援センターが2,886円/人、くまさんルームが35,748円/人となっています。

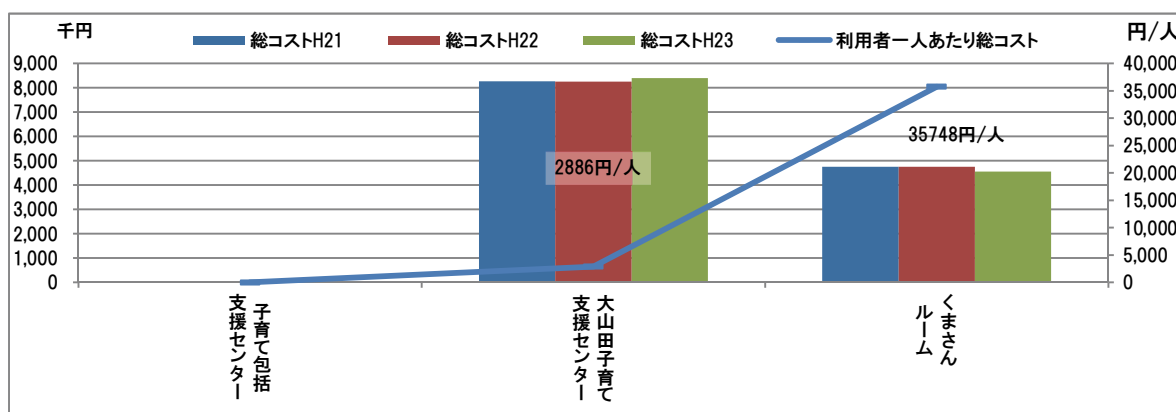


図2-3-34 総コストの推移と利用者一人当たり総コストの比較

(4) 供給の状況

平成23(2011)年度の利用者数は、大山田子育て支援センターが2,876人、くまさんルームが131人となっています。また、過去3年間の利用者数の増減率を比較すると、増加傾向となっています。

なお、子育て包括支援センター(ハイトピア伊賀)は、平成24(2012)年度に供用開始された施設のため、利用者数の記載をしていません。

施設名称	利用者数_H21	利用者数_H22	利用者数_H23	増減率	年間の利用定員	定員に対する稼働率
ハイトピア伊賀公共公益施設(4階)子育て包括支援センター	—	—	—	—		0.0%
大山田子育て支援センター	2,577 人	3,549 人	2,876 人	11.6%	1,400 人	83.7%
病児・病後児保育室(くまさんルーム)	77 人	162 人	131 人	70.1%	1,095 人	11.3%

表2-3-18 子育て支援施設の利用状況

子育て支援施設については、定員に対する稼働率を指標として比較を行いました。稼働率は大山田子育て支援センターで83.7%と高く、くまさんルームでは11.3%となっています。

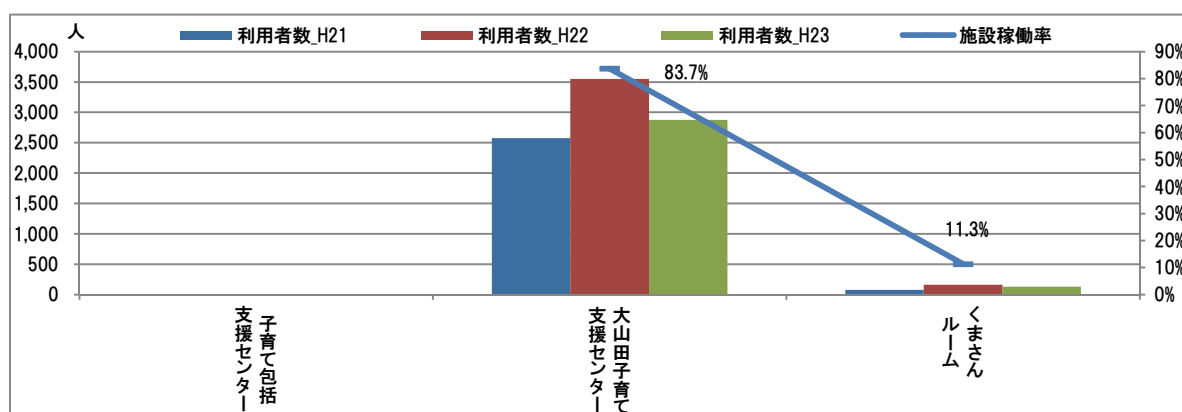


図2-3-35 利用者数の推移と施設稼働率の比較

(5) 施設配置状況及び需給の動向

子育て支援施設は、サービス供給エリアを全市（くまさんルーム、子育て包括支援センター）、各支所（各子育て支援センター）とし、需要者を0歳から4歳（くまさんルームは0歳から9歳）と設定しました。0歳から4歳の一人当たりの供給状況を比較すると、島ヶ原支所エリアが2.58、阿山支所エリアが1.46と、需給バランスが平均の1.00を超えています。

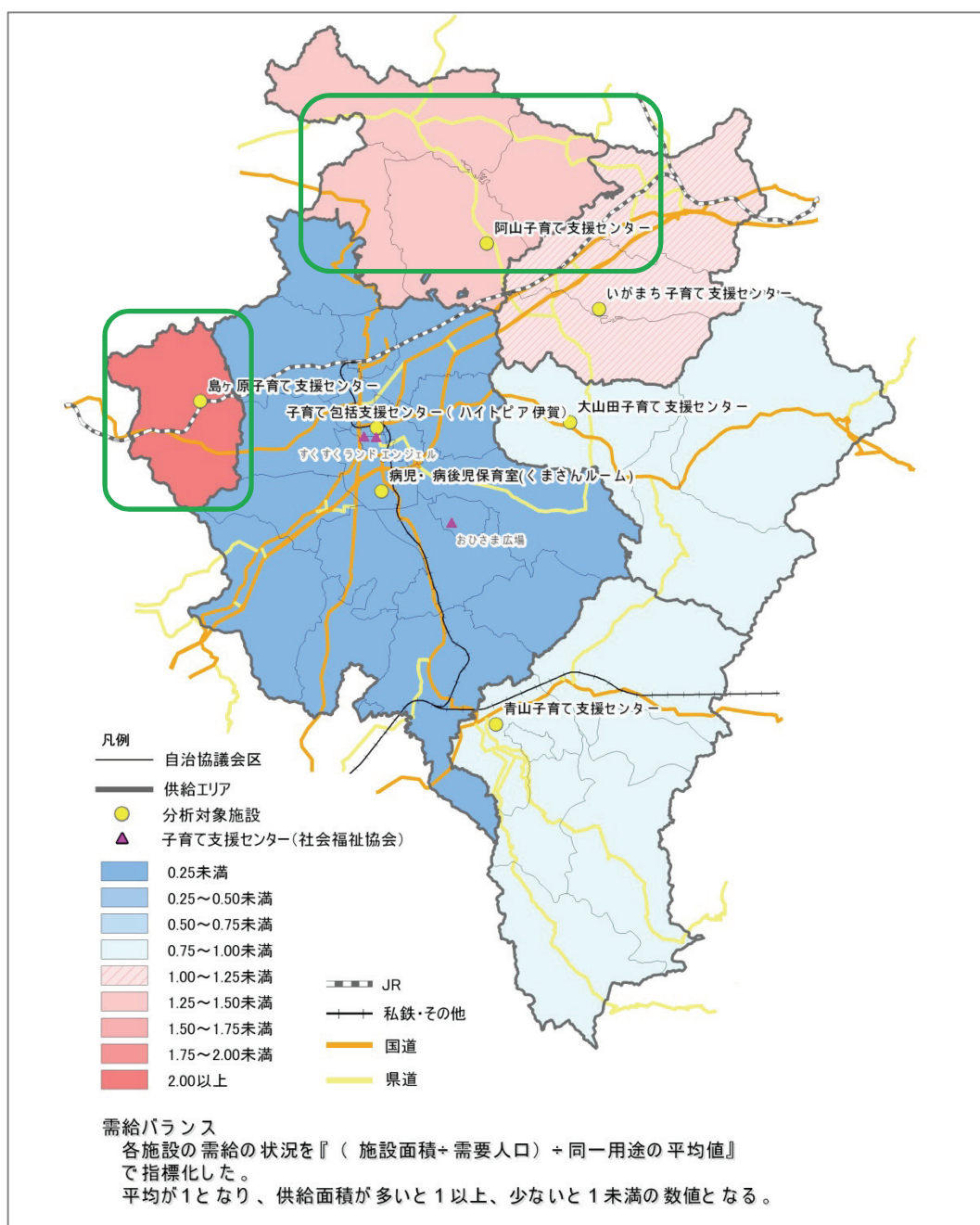


図2-3-36 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

また、5歳から9歳人口の将来推計からは、平成22（2010）年度の3,776人から平成47（2035）年度には2,141人と、43.3%の減少が見込まれます。

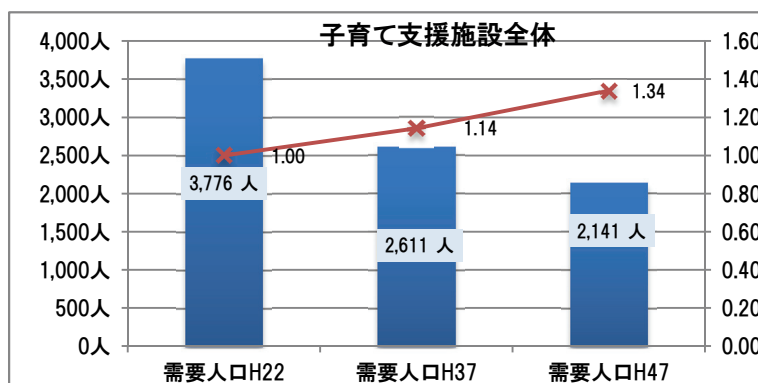


図2-3-37 子育て施設の需要人口と需給バランスの将来推計

また、個別エリアの将来推計からは、島ヶ原支所エリアの需給バランスが2.58から2.79、阿山支所エリアでは1.46から2.33へと変化することが見込まれます。

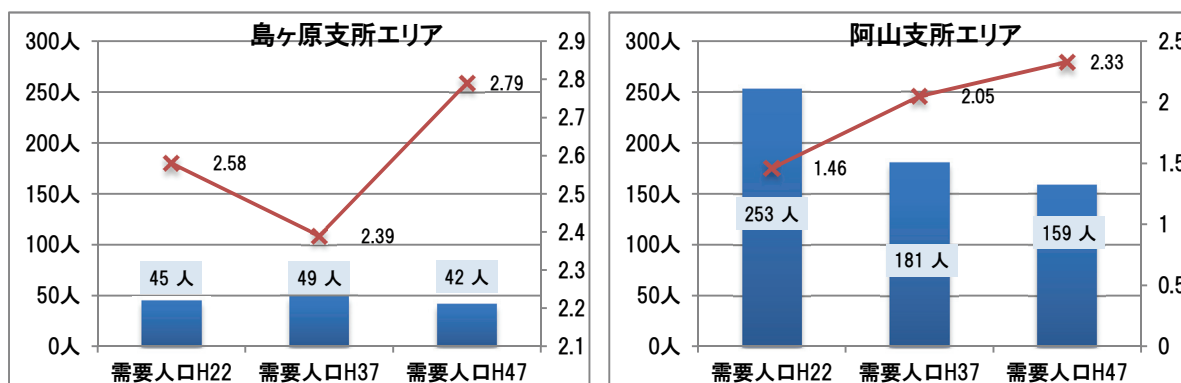


図2-3-38 需要人口と需給バランスの将来推計

（6）現状と課題

<施設>

全体の老朽化率は7.4%と良好な値となっています。全施設とも残存年数が30年以上あるため、短期的な課題は見受けられませんが、長期間の使用を見据え適切な維持保全を行っていくことが重要です。

<供給・需給>

過去3年間の利用者数は増加傾向ですが、少子化などの影響もあり、平成47（2035）年度には、0歳から4歳の人口は約43.3%の減少が想定されています。